

## 記譜プロジェクト

### 「伝統音楽の記譜法からの創造」

## 2020 年度活動報告

昨年度から筆者が担当しているのは、古琴における記譜法と創造に関する普及とアーカイブである。

昨年度は古琴の伝承とその芸術性について、北京在住で中国の国家級非物質文化遺産古琴芸術代表性传承人の吳釗氏にお越しいただき、2019 年 11 月 7 日（木）正午より、京都市立芸術大学新研究棟 2 階大会議室にて講演会を実施した。

内容は、記譜法の変化について、唐代の琴譜と明代の琴譜の相違、記譜の方法、記譜と実際の音との関係性、記譜と口伝の奏法の相違点、楽器の特性と音など、記譜を軸としながら多岐にわたるものであった。

約 2 時間に渡る講演・質疑応答であったが、1 回では古琴の芸術性をすべて語り尽くすことは到底できず、第 2 回が望まれていた。しかし、残念ながら、2020 年 1 月以来の新型コロナウイルス流行の影響で、吳釗氏に来日していただくことはおろか、講演会を企画することもかなわない状況となった。また中国の事情から、オンライン開催も難しく、今年度に講演会を実施することは叶わなかった。

そこで、今年度は、昨年度の講演会の記録をアーカイブ化することにした。昨年度の講演会は平日の日中、大学という環境であったため、来ることができる方が限られていた。しかし、中国でも古琴の研究者としても伝承者としても第一人者である吳釗氏の講演に参加したかったという声を多く聞いた。そこで、吳釗氏の許可を得て、昨年度の講演会の映像をアーカイブ化することにした次第である。

アーカイブにあたって、次のように実施することにした。

- ・ 吳釗氏の講演を全て収録する。
- ・ 質疑応答についても全て収録する。
- ・ 通訳部分はカットする。
- ・ 吳釗氏の講演および応答部分について、日本語字幕を付ける。

講演は 2 時間に及んだが、2 時間の映像は視聴がなかなか難しい可能性がある。したがって、通訳部分をカットすることにした。通訳部分をカットすれば時間を半分以下に短縮できる。約 1 時間であれば、視聴が楽にできると考えた。また、字幕を付けることで、より正確な内容を発信することができると考えた。質疑応答についても同様である。

そして、完成した映像は、芸術資源研究センターの HP 上のアーカイブで公開する予定である（2021 年 3 月頃を予定）。

来年度には、コロナ収束を願い、第 2 回講演会を実施したいと考えている。

武内恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）